

自己点検・自己評価の概要

I. 行動目標

1. 教育活動の改善

- (1) アクティブラーニング型授業づくりを推進する。(継続)
- (2) 地域(病院等)と連携した看護基礎教育を推進する。(継続)
- (3) 入学後の学習に連動させた「入学前学修」を実施する。(継続)
- (4) 看護基礎教育に ICT の活用を推進する。(継続)
- (5) 新カリキュラムの評価を踏まえた見直し
- (6) FD 活動の推進(継続)

2. 財務体質の安定化

- (1) 収支を見極めた予算計画を立て、計画に基づいた執行をする。(継続)
- (2) 財源確保への取り組みを推進する。(継続)

3. 組織構造の改善

- (1) 効率的な学校運営を推進する。(継続)
- (2) 教職員の同僚性(協同)を推進する。(継続)
- (3) 人事評価に基づく組織の活性化
- (4) 学内広報委員会活動の充実(継続)
- (5) 働きやすい職場環境の推進(継続)
- (6) 教職員のキャリア支援を推進する。(継続)

II 実働内容

1. 教育活動の改善

- (1) アクティブラーニング型授業づくりを推進する。
 - ① 新カリキュラムに位置づけた科目「学びの基本」を基盤にした授業を展開する。
 - ・全教員が協同学習について理解し、授業改善ができるようにする。
 - ・学生が、科目「学びの基本」で体験した協同学習の基本を各看護学領域での授業展開に活用する。
 - (2) 地域(病院等)と連携した看護基礎教育を推進する。
 - ① 臨地実習施設と協同して看護基礎教育に係るビジュアル教材の作成を行う。
 - ② 実習施設との連携の強化
 - ・臨地実習施設と実習指導上の課題を共有し、年に1回程度の情報交換会を持つ。
 - ・学内演習に TA 制度を復活させ、連携を促進する。
 - ③ 臨地実習施設との双方向での人事交流を行う。
 - ④ 浦添市と連携した看護基礎教育を行う。
 - ・浦添市まちづくり生涯学習推進協議会に学生を委員として派遣する。
 - ・浦西中学校区コミュニティづくり委員会に教員を委員として派遣する。
 - ・浦西中学校区の自治会活動に学生が参加できる教育プログラムを創設する。
 - ⑤ 学生のボランティア活動を教育的視点から推進する。
 - (3) 入学後の学習に連動させた「入学前学修」を実施する。
 - ・浦添看護学校が実施している協同学習の技法を体験する。
 - (4) 看護基礎教育における ICT の活用を推進する。
 - (5) 新カリキュラムの評価を踏まえた見直し
 - ・授業評価や「看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標」の調査の分析結果を踏まえた新カリキュラムの検討。
 - (6) FD 活動の推進
 - ① ミニ授業研究会の充実を図る。
 - ・各看護学領域で少なくとも1件以上の授業展開(案)をミニ授業研究会に提案する。
 - ・全員参加を促すために、ミニ授業研究会は勤務時間内に実施する。
 - (7) 教育環境の整備
 - ① 教材の保守点検を年1回行う。
 - ② 図書室の環境整備
 - ③ 学生専用ロッカーの整備

④ 購入計画に基づいた教材備品の整備

2. 財務体質の安定化

(1) 収支を見極めた予算計画を立て、計画に基づいた執行をする。

- ・予算確保及びその執行について教職員の理解を得る。

(2) 財源確保に向けた取り組みを推進する。

- ① 退学者、休学者の増加を抑える。
 - ・合理的配慮を要する学生の支援
- ② キャリア支援チームによる学生支援を継続する。
- ③ スクールカウンセラーの活用を推進する。
- ④ 受験生の確保を推進する。
 - ・入試制度の見直しをする。

3. 組織構造の改善

(1) 効率的な学校運営を推進する。

- ① 学務システムの円滑な運用
- ② 人事評価に基づき各教職員を支援する体制を推進する。
- ③ 実習施設との「教育研修制度」を充実・強化する。
- ④ 看護教育機関の職場体験を実施し、安定的な教員確保につなげる。

(2) 教職員の同僚性（協同）を推進する。

- ① 実践研究授業（授業参観→授業の振り返り→授業改善）を実施する。
- ② FD委員会を活用し、FD活動を通して教員同士が学び合う風土の醸成を図る。

(3) 人事評価に基づく組織の活性化

- ① 校務分掌の見直し・具体化を図る。
- ② 教員ラダーに基づく教員各自の目標の明確化

(4) 広報活動の工夫

(5) 働きやすい職場環境を推進する。

- ① 業務改善委員会の規程を策定し、委員会活動を推進する。-
- ② 有給休暇の計画的取得を推進する。
- ③ ハラスメント対策の取り組み。

(6) 教職員のキャリア支援を推進する。

- ① 教員のラダーに基づいた研修制度を周知する。
- ② 教職員の主体的な研修参加を支援する。

(7) 目標管理の導入

- ・BSCを作成し、全教職員で目標達成に向けて取り組む。

3. 各評価指標の概要

指標 I：教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
1) 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	4
2) 学校における職業教育その他の教育指導等の特色は何か	4
3) 社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか。	4
4) 理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか。	4
5) 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

課題

- 1) 医療や看護を取り巻く社会のニーズの変化に伴って、厚生労働省や日本看護協会、看護学校協議会などの関係団体の看護基礎教育の考え方が大きく変わろうとしているため看護学校の将来構想検討する必要がある。
- 2) 実習施設との意見交換を密に行い現場に対応できる看護師の育成を実習施設と連携・協働して行う体制を構築する必要がある。
- 3) 保護者との連携を密にして教育理念等に係る効果的な周知の方法を検討する必要がある。

今後の改善策

課題1) について

(1) 厚生労働省や日本看護協会、看護学校協議会などの関係団体などの看護基礎教育考え方や医療や看護を取り巻く社会のニーズに対する情報に注視し、職員とタイムリーに情報共有し、教育目的・目標や人材育成像について評価・修正または再構築する必要がある。

(2) 学内において、今後の『学校の在り方検討会』を継続して実施する。

課題2) について

(1) 臨床現場との情報交換会を年1～2回開催する。

(2) 臨床実習との人事交流により現状の問題点を把握しつつ、中・長期的視点で問題点共有し対策について検討する機会を持つ。次年度は病院と学校の双方向の人事交流を検討する。

課題3) について

(1) 後援会総会時に理念及び教育目的・目標の説明を行うと同時に教育現場が抱える課題を共有する。

(2) 保護者とのオンラインによる情報発信の方法を検討する。

特記事項(良い点)

- 1) 学校の在り方検討会を開催し全職員で現状分析し、目標達成のための戦略を策定することができた。そのプロセスを通して理念や教育目標を再構築し、意思統一することができた。
- 2) 看護技術の演習に臨床現場からTAを導入し臨床現場と看護学校における技術教育が乖離しないようにしている。
- 3) 病院から教育研修生を受け入れており、臨床現場と看護教育の現状の相互理解及び教育内容の検討の機会となっている。
- 4) 教育理念が学生に浸透しており、ほぼ全員が『学校の理念は何か』と問われた時に応えることができる。また、宣誓式においても、『愛・智・技』を学生自身の言葉で表現し宣言している。

指標Ⅱ：学校経営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
1) 目的に沿った運営方針が策定されているか。	4
2) 運営方針に沿った事業計画が策定されているか。	4
3) 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか・有効に機能しているか。	4
4) 人事、給与に関する規程等は、整備されているか	4
5) 教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか。	4
6) 業界や地域社会等にコンプライアンス体制が整備されているか。	4
7) 教育活動に関する情報公開が適切になされているか。	4
8) 情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	3

課題

- 1) 地域に根づく看護学校としての情報発信を推進する。
- 2) 実践している教育活動を広く情報公開することができていない。
- 3) 情報システムの整備やタイムリーな情報発信のためにITCに関わる技術職員の確保が必要である。

今後の改善策

課題1) について

(1) 浦添市、浦添市8自治会、JICA 沖縄国際センター、実習施設である福祉施設や訪問看護事業所との連携を深める。

(2) 地域活動への教職員の積極的な参加を推進する。

課題2) について

(1) ホームページ等を活用して研究成果や教育活動を発信する。

課題3)

(1) 法人本部との調整

特記事項(良い点)

- 1) コンプライアンス体制が整備されているため組織として迅速な対応に繋がっている。またコンプライアンスに関連した研修会や学生への指導を通して職員、学生のコンプライアンス意識が高まっている。
- 2) 教育活動の情報公開として2学会に演題を2題発表できた。また、『協同学習を用いた教育研究会 in 沖縄』で本校が教育の基盤として導入している協同学習を周知することができた。

指標Ⅲ：教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
1) 教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方針などが策定されているか。	4
2) 教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	4
3) 学科などのカリキュラムは体系的に編成されているか。	4
4) キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4
5) 関連分野の企業・関係施設など、業界団体などとの連携により、カリキュラムの作成・見直しなどが行われているか。	4
6) 関連分野における実践的な職業教育（産学連携による職業体験・インターンシップ、実技・実習など）が体系的に位置づけられているか。	4
7) 授業評価の実施・評価体制はあるか。	3
8) 職業教育などに対する外部関係者からの評価を受け入れているか。	4
9) 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	4
10) 資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるのか。	4

課題

1) 教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針などについて

2022年度の第5次カリキュラム改正に伴い、教育課程の編成を行った。3年間の教育課程の評価を実施する時期だか評価方法や評価基準の明確化について継続して検討する必要がある。

2) 教育到達レベルや学習環境の確保について

(1) 実技科目の授業内容

授業が1日あたり4校時まで設定されているため、空き時間を利用した技術練習の確保が難しい場面がある。また実習室の使用が重複することがあり、十分な技術練習時間を確保できない可能性がある。今後は実習室の使用法の調整および技術指導体制の工夫について検討する必要がある。

(2) 教育方法の工夫や開発などについて

臨床現場と協働して教材づくりを実施しているが、協力施設の拡大や教育活動を継続できるようための体制づくりが課題である。

3) 実習施設の確保

「健康支援を知る実習」について、多くの実習施設を確保しながら実習内容の質を維持するための施設確保と多くの施設との調整方法について検討を行う必要がある。

3) 授業評価の実施・評価体制について

(1) 実習評価はルーブリック評価を体系化しているが、評価項目や評価基準の妥当性などについて継続して検討する。

(2) 授業評価アンケートについては回答率向上のための実施方法および学生への周知方法を検討する必要がある。

(3) 授業評価結果についてデータ化を進め、教育内容および授業方法の改善に活用する体制を強化する。

今後の改善方策

課題1)について

(1) 教育理念を踏まえ、アセスメントポリシーの検討を行い、教育課程の評価について可視化する。

(2) 学生の授業評価や到達度評価、国家試験結果などを総合的に分析し、カリキュラム改正後の教育効果について定期的に検証を行う。

(3) 教務会議等において評価結果を共有し、教育内容の改善につなげる仕組みを強化する。

(4) 教育課程の内容について、シラバスを活用し学生への説明と周知方法の充実を図る。

課題2)について

(1) 各専門領域の科目内容や指導方法について現状と課題を検討し、効果的な学修方法を実践していく。技術到達度に応じた練習時間を確保するとともに、臨地実習において学生が自信をもって看護実践を体験できるよう支援体制を整備する。

(2) 学生の学習状況を考慮し、課題量や科目進度について継続的に調整を行う。

(3) 臨床現場との協働による教材づくりを継続するとともに、協力施設との連携体制の維持・拡大を検討する。また、教育内容に関する情報交換を行い、臨床現場と連携した教育活動を継続的に実施できる体制づくりを行う。

進める。TAによる教育効果についても評価を行い、派遣元との連携の方法を制度化する。

(4) 「健康支援を知る実習」について、実習施設との情報交換会を定期的に行い、教育内容の改善に活かす。
課題3)について

- (1) 実習のルーブリックについて、評価項目および評価基準の妥当性を継続的に検討し、学生の成長を適切に評価できる体制を整備する。
- (2) 授業評価アンケートについては、回答率向上に向けて、アンケートの項目の精査や授業時間内での回答時間の確保を検討する。また、アンケートの目的や必要性について学生に周知し、回答率の向上に努める。
- (3) ミニ授業研究会などのFD活動を継続的に実施し、授業改善に活用していく。
- (4) FD活動を通じて、授業内容や授業方法を改善し、教育効果の向上を図る。
- (5) 実習施設との情報交換会を年間計画に組み込み、定例化することで、教育内容や指導方法の改善に活かす。

特記事項（良い点）

- 1) 教科目外の特別講演や特別講義、体育祭など行事を計画どおり実施でき、学生の主体性や社会性を育む機会となった。
- 2) 教育方法の工夫として「看図アプローチ」を活用した教材づくりを通して、臨床現場との連携、研究発表まで発展させることができた。
- 3) FD活動を通して授業改善ができ、教育実践力の向上につながっている。
- 4) 「健康支援を知る実習」など新カリキュラムの実習でも多岐に渡る実習施設と連携した教育を実施している。

指標Ⅲ：教育活動（教員等）

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
1) 人材育成目標に向けて授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。	4
2) 関連分野における業界等との連携においてすぐれた教員（本務・兼務を含む）を確保するなど、マネジメントが行われているか。	4
3) 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成などの資質向上のための取り組みが行われているか。	4
4) 職員の能力開発のための研修等が行われているか。	3

課題

- 1) 教務主任養成講習会修了者が1名のみである。
- 2) 専任教員の条件を充たしていない教員が5名おり、中・長期的に安定的に専任教員を確保する必要がある
- 3) 専任教員の確保が困難である。
- 4) 教員の研修への参加率が低い。

今後の改善策

- 1) 課題1) について
 - (1) 日本看護学校協議会の教務主任養成講習会への派遣を計画的に実施する。
- 2) 課題2) について
 - (1) 看護教員養成講習会の受講を計画し、派遣できるように人材確保や業務調整をする。
- 3) 課題3) について
 - (1) 教員の定年や転職希望を早期から把握し、採用計画を立案実施する。
 - (2) 沖縄県ナースセンターと連携する。
 - (3) 教職員間のネットワークを活用する。
 - (4) 教員が働き続けられる環境づくりに継続的に取り組む。
 - (5) TAとしての派遣依頼を促進する。また、授業参観や本校が主催する研修会に案内し、教育の魅力を伝える。
- 4) 課題4) について
 - (1) 研修に参加しやすいように業務内での開催や研修時間など運営方法の検討をする。
 - (2) 学内のFD活動の定着、促進を図る。
 - (3) ミニ授業検討会について話題提供者が、精神的に負担なく参加できるよう各専門領域でサポート体制を構築する。また、指導案検討会や授業参観への参加者を増やすため年間計画を立案し、声かけや時間帯及び所要時間などの工夫をする。

特記事項（良い点）

- (1) 2025年度沖縄県看護教員養成講習会に教員を2名派遣することができ、教員のキャリアアップにつながった。
- (2) FD委員会の活動として、本年度は各領域から話題提供者を募り、ミニ授業検討会を計5回実施することができた。話題提供者や参加者からは肯定的な感想や意見があった。
- (3) 日本在宅看護学会や日本協同教育学会で研究発表することで、教員の資質向上につながることを期待され

る。

指標Ⅳ：学修成果

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
1) 進学率や就職率の向上が図られているか	4
2) 資格取得率の向上が図られているか	4
3) 退学率の低減が図られているか	4
4) 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
5) 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	3

課題

- 1) キャリア支援の取り組みにより、進学・就職率に一定の成果がみられている。一方で、学生の進路選択は多様化しており、個々のニーズに応じた支援体制が求められる。そのため、今後も継続的かつ個別性を重視したキャリア支援の強化が必要である。
- 2) 退学理由は把握しているが、学年別の傾向や成績・出席状況との関連についての詳細な分析は行っていない。また、問題発生後の対応は行っているが、退学を未然に防ぐための早期発見・予防的支援は十分とはいえない。
- 3) 卒業生や在校生の社会的な活動や外部からの評価、ならびに卒業後のキャリア形成の状況については、体系的に把握できていない。今後は追跡調査やアンケート等を実施し、客観的なデータを収集して教育活動の改善に活用する仕組みづくりが必要である。
- 4) 看護師国家試験につながる学習方法を1年次から段階的に計画する必要がある。

今後の改善策

- 1) 課題1)について
 - (1) 現在のキャリア支援体制を継続・充実させるため、学生支援委員会を中心とした支援体制に加え、全教員がキャリア支援に関与し、学生の進路選択を支援していく体制を強化する。
 - (2) 看護職としてキャリアを積むことの意義を理解できるよう、看護協会や認定看護師などによる講演会・講義を継続し、学生の職業意識の醸成を図る。
- 2) 課題2)について
 - (1) 退学・休学の予防および低減を図るため、退学・休学理由の傾向を分析し、学年別・成績別・出席状況別の視点から学生の状況を把握する体制を整備する。
 - (2) 出席管理システムの活用、学習支援、カウンセリング体制の継続的運用により、退学・休学の早期発見および予防的支援を強化する。
 - (3) 休学者に対しては復学後のフォローアップ面談を定期的実施し、学業継続を支援する体制を確立する。
 - (4) 成績が低迷している学生や指導が難しい学生への対応力向上を目的として、コーチングスキル向上のための教員研修を実施する。
- 3) 課題3)について
 - (1) 卒業生および在校生の社会的活動や外部評価、卒業後のキャリア形成状況を把握するため、同窓会や実習施設、就職先との連携を強化し、追跡調査の実施を検討する。調査方法として、SNSやGoogle Forms等を活用し、広範囲から情報収集が可能な仕組みを構築する。また、収集した情報を教育内容やキャリア支援活動の改善に反映させる体制を整備する。
 - (2) 「浦看カフェ」「浦看ハウス」等の卒業生交流活動を継続し、卒業生同士のつながりを維持・強化する。開催方法や開催時期を工夫するとともに、オンライン交流の活用も検討し、参加機会の拡大を図る。
- 4) 課題4)に対して
 - (1) 国家試験対策の3年間の計画を立案し、学年の達成目標も共有する。

- (2) 1年次には業者による保護者ガイダンスを取り入れ、生活環境の調整やメンタル面のフォローなど保護者の協力が必要なことを伝えていく。

特記事項（良い点）

- 1) 国家試験対策が充実している。
 - (1) 資格取得については、国家試験対策委員会が設置されており、各学年担当の意識も高く、1年次から計画的に学習できるような環境を整えている。
 - (2) 国家試験対策関連業者と連携をしながら成績を評価分析し、学習状況について個別面談を実施している。また学年担当教員を中心に個別指導を徹底している。
 - (3) 国家試験合格の状況分析を行い、次年度の教育計画に生かしている。
 - (4) 後援会からの経済的支援がある。
- 2) 障害学生支援の規程を策定し、合理的配慮に対応できるようにし、学習環境の整備を実施している。
- 3) 1年次からのキャリア支援、個別面談、学習支援、カウンセリング体制の充実、出席管理システムの活用など、多面的な学生支援体制を整えている。
- 4) 退学理由を踏まえ、入学前学修としてリアル看護体験を実施し、看護職への理解を深める機会を設けている。入学前から職業意識の形成を図り、主体的な学修への取り組みを促している。
- 5) 「浦看カフェ」等の卒業生交流活動を継続して実施し、卒業後もつながりを保ちながらキャリア形成を支援している。

指標V：学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
1) 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
2) 学生の健康管理を担う組織体制はあるのか	4
3) 課外活動に対する体制は整備されているか	4
4) 学生の生活環境への支援は行われているか	4
5) 保護者と適切に連携をしているか	4
6) 卒業生への支援体制はあるか	4
7) 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
8) 専門学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	4
9) 基本的な生活習慣の確立のため取組が行われているか	4
10) 学生の安全管理のための取組等（災害共済保険、スクールカウンセラー、発達障害のある生徒等への支援等）	4
11) 進学・就職指導に係る支援体制は整備されているか	4

課題

- 1) 体調不良による欠席が一定数みられることから、学生の健康管理意識や規則正しい生活リズムの定着に課題があると考えられる。今後は、学生の自己管理能力の育成や早期発見・予防的な支援体制の充実を図る必要がある。
- 2) 社会人のニーズを踏まえた教育環境の整備については、学習する上での課題について把握が必要である。
- 3) 他の専門学校と連携した教育「専門職連携教育」の構築や検討が必要である。
- 4) クラブ活動は実施しているものの、現在は1団体のみであることから、活動内容の充実や活性化に向けた取り組みの検討が必要である。
- 5) 保護者との連絡手段が主に電話に限られており、学生の日々の出席状況について、保護者が随時把握できる仕組みが十分とはいえない。
- 6) 合理的配慮に必要な学生の支援体制整備はできたが、個別性に応じた支援体制の方法を検討しながら継続課題として検討が必要である。

今後の改善策

1) 課題1)について

学生が自己の健康を管理ができるよう、生活リズムや体調管理について面談を通して指導するとともに、必要に応じて保護者と連携し、家庭での生活状況も含めた支援を行う。

2) 課題2)について

- (1) 社会人学生の学業継続や学習困難状況の実態を把握し、課題を明確にして対策を立案し取り組む。
- (2) 奨学金貸与については、直接病院等と契約して奨学金貸与を利用している学生もいるため奨学金貸与学生の実態を把握する。

3) 課題3)について

「専門職連携教育」は、全体カリキュラムの時間数や内容を検討し、導入可能な方法を検討していく。

4) 課題4)について

クラブ活動の活性化を図るため、クラブ設立に関する手続きや条件、支援内容について学生へ周知する。また、活動に必要な経費については、活動計画に基づき学生会費から予算配分を行い、継続的かつ主体的な活動を支援する体制を整備する。さらに、学生のニーズの把握を行い、新たなクラブ設立の支援および既存のクラブの活動内容の充実や参加促進に向けた取り組みを推進する。

5) 課題5)について

次年度より、保護者が学生の出席状況を確認できるシステムを導入し、情報共有の充実を図る。また、電話連絡に加え、メール等の活用も検討し、保護者との連絡手段の多様化を進め、より円滑な連携体制の構築を目指す。

特記事項（良い点）

- 1) 学生が安心して学修および学校生活を送ることができるよう、健康管理、課外活動支援、生活環境整備、進路・就職支援など、学生支援体制を整備している。
- 2) 卒業生交流活動（浦看カフェ、浦看ハウスなど）を継続的に実施し、卒業後も相談できる支援体制を整えている。
- 3) 障害学生支援規程を整備し、合理的配慮に基づく支援を組織的に実施している。

指標VI：教育環境

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
1) 施設・整備は、教育上の必要性に十分に対応できるように整備されているか	4
2) 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	4
3) 防災に対する体制は整備されているか	3

課題

1) 施設整備について

- (1) 実習室の設備が更新時期となる箇所がある。

2) 環境整備について

- (1) 清掃時間に、教員が巡回し学生へ声掛けしたが、教員が巡回出来ない時は、清掃がきちんと出来てない時もあった。学生の環境美化委員へ対応策を立ててもらおう等行ったが、学生の清掃当番もやる人とやらない人がおり、清掃を定着させることが難しい。
- (2) トイレ清掃はこれまで学生が行っているが、清掃箇所が多く、学生が丁寧に掃除するのは困難なため、清掃の質の維持が難しい状況にある。

3) インターンシップ・実習等の環境について

- (1) 実習科目の目標が達成できるよう実習施設の選定や新規申請を行うなど安定的確保が必要である。
- (2) 既存の実習施設においてもコピー機の使用や研修室・駐車場の確保などを行い学習環境の整備が必要である。

4) 防火以外の防災に関するマニュアルなどの整備が必要である。

今後の改善策

1) 課題1)について

- (1) 年度計画に基づいて更新を行う。

2) 課題2) について

- (1) 音楽を流している清掃時間帯だけでなく、それ以外の時間帯についても清掃に関する周知を行い、日常的に環境整備への意識を高めるよう取り組む。
- (2) 施設的环境美化の視点から清掃方法の改善や外部委託の導入について、次年度も引き続き検討する。

3) 課題3) について

- (1) 科目担当教員と連携を取り実習施設の学習環境の現状を把握し、改善に向けて検討していく。
- (2) 年度末に実習終了報告書を作成する際に施設環境についても要望として記載し、年度初めの実習説明会で環境整備をお願いする。

4) 課題4) について

次年度以降に防災対応マニュアルを作成し、学生・教職員への周知及び対策を行っていく。

特記事項（良い点）

- 1) 防犯防止も含めて学生全員分のロッカーを設置し、個別キーを配布した。

指標Ⅶ：学生の受け入れ募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
1) 学生募集活動は適正に行われているか。	4
2) 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。	4
3) 学納金は妥当なものとなっているか。	4

課題

- 1) 入学時アンケート調査結果と現状の学生募集活動とを照らし合わせた結果、本校が行っている活動は、希望者の意向に沿って適切に進められているが、社会情勢の変化等により、受験者数が減少傾向にあるため、受験者数を増やすための工夫が必要である。また、入学生が本校を志望した理由を踏まえ今後更に教育内容の質を高め教育環境の整備充実に向けていく必要がある。

さらに、情報社会において入学希望者へ適切に情報提供を行えるよう、ホームページや SNS 等の Web 媒体を活用した広報活動の検討やそれに伴う環境整備が必要となる。

今後の改善策

- 1) 課題1) について入学時アンケート調査結果を踏まえ、進路選択の指標として重要な学校案内パンフレット、学校ホームページ、オープンキャンパスを充実させ、その内容を Web 媒体に反映し入学希望者が必要とする情報を詳細に希望に沿って伝えていく。また、入学時アンケート調査を継続し、回答項目に適宜、修正・追加を加え入学希望者が求める情報を適切に把握し、入学希望者へ提供していく。さらに、入試制度の見直しを検討し、受験生の確保に努める。

さらに、情報社会において入学希望者へ適切に情報提供を行えるよう、ホームページや SNS 等の Web 媒体を活用した広報活動の検討やそれに伴う環境整備が必要となる。

特記事項（良い点）

- 1) 受験者数の増加を狙い、入学試験制度について検討した結果、指定校推薦入試制度の募集人員を増やすとともに早期に対象校に周知した。これにより指定校推薦入試の応募者数は 14 名となり、昨年度より 5 名増加した。

指標Ⅷ：財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
1) 中長期的に学校の財務基盤は安定しているか。	4
2) 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	4
3) 財務について会計検査が適切に行われているか。	4
4) 財務情報公開の体制整備はできているか。	4

課題

当年度の財務運営においては、物価上昇や人件費の増加等の外部環境の影響により、支出増加リスクが高まっている。特に、固定的経費の増加は単年度収支に直接的な影響を及ぼすため、支出構造の継続的な検証が必要である。

る。また、収入面においては、入学定員の充足状況により学納金収入が大きく左右される構造となっていることから、受験生確保の動向は財務に直結する重要な課題である。さらに、中途退学の発生は在籍者数の減少を通じて収入減少につながるため、退学防止対策の強化も必要である。

加えて、予算執行状況の把握と分析をより迅速かつ確に行う体制の強化が求められており、収支の安定化に向けた管理体制のさらなる充実が必要である。

今後の改善策

物価上昇及び人件費増加を踏まえ、予算編成の精度向上と予算執行状況の定期的な確認を徹底し、適切な支出管理を行う。また、入学定員の安定的充足を図るため、広報活動の強化及び入学試験制度の工夫により受験生確保に努める。あわせて、中途退学の防止に取り組み、在籍者数の安定化を図ることで、単年度収支の安定に努める。

特記事項（良い点）

教職員が無駄な支出を抑え質の高い教育を提供できるように一丸となって取り組んでいる。

指標Ⅸ： 法令等の遵守

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
1) 法令・専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか。	4
2) 個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか。	4
3) 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか。	3
4) 自己評価結果を公表しているか。	4

課題

自己点検・自己評価の結果、問題点が改善できていないものがある。

今後の改善策

課題1) について

自己点検・自己評価の問題点を委員会活動に反映させて計画的に取り組み、実効性のあるものにする。PDCA を機能させ、活動状況の進捗管理と最終評価の報告会を行う。

特記事項（良い点）

個人情報保護に対する職員・学生の意識が高く、抵触が疑わしい場合は、積極的に疑問を投げかけてくる職員や学生が多い。

指標Ⅹ：社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
1) 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	4
2) 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	4
3) 地域に対する公開講座、教育訓練（公共職業訓練等）の受託等を積極的に実施しているか	4

課題

1) ボランティアへの応募はしているが、報告書の提出が約 65%と少ないため実態の把握が困難な状況である。

2) 学生のボランティア活動を拡大する必要がある。（参加者が約 48%と少ない）

今後の改善策

1) 課題1) について

1月より ICT を活用した報告書の提出を開始しているため、経過をみていく。

2) 課題2) について

関係団体や実習施設へボランティア活動の状況を伝え、依頼を増やし学生が興味のあるボランティアへの参加を促す。「浦西中学校区コミュニティづくり推進委員」のメンバーから地域の現状や支援可能なことなど情報共有しボランティア活動を継続して広げていく。

特記事項（良い点）

- 1) 地域の高齢者のための取り組みが増加している。これらへの参加は、「健康支援を知る実習」をはじめ、既習またはこれから学習する健康支援、在宅支援の一環としての学びの体験や、老年期の対象理解に繋がる。また、血圧測定などの技術を実践する機会となり、毎月開催している「にしはら公民館カフェ」では、継続的にボランティアに参加して関わっている学生のコミュニケーション力の向上も確認できている。
- 2) 「健康支援を知る実習」において新たな実習施設となった施設から学生の実習への取り組み状況が評価され、ボランティア活動の依頼が2024年に続き、増えてきている。
- 3) 資源ごみの分別が定着している。

指XI：特別活動等

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
1) クラブ活動特別活動を奨励、支援しているか。	4
2) 保護者会等と連携した活動を推進しているか。	4

課題

- 1) ボランティア部の設立によりクラブ活動の基盤は整いつつあるが、在籍メンバーが特定の学年に偏っており、持続可能な運営体制の構築が課題である。他学年への参加促進や運営体制の整備を図り、活動内容の充実や安定化を図る必要がある。
- 2) 保護者との連絡手段が電話に限られており、迅速かつ効率的な情報共有の体制が十分とはいえない。

今後の改善策

- 1) 課題1)について
 - (1) クラブ設立に関する手続きや支援内容を学生へ周知し、新規のクラブ設立の支援や既存クラブの活動内容の充実・参加促進を図る。
 - (2) 夏期休暇期間中に実施可能な正課外プログラムを検討・実施し、学生の主体的活動の機会を拡充する。
 - (3) 浦添市内自治会との連携を推進し、地域と連携・協働した活動体制の構築を図る。
- 2) 課題2)について
 - (1) 保護者との情報共有の機会を充実させ、看護師教育への関心・理解促進を図る。
 - (2) 電話連絡に加え、メール等の活用を検討し、保護者との連絡手段の多様化を図ることで、緊急時や重要事項の情報伝達を迅速化し、より円滑な連携体制の構築を図る。

特記事項（良い点）

- (1) 後援会と連携し、国家試験対策に係る経済的支援を安定的に実施している。
- (2) 2025年度には図書購入補助へと支援内容を拡充し、学生の学習環境整備に寄与している。

指標XII：学校行事委員会

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや適切・・・2 不適切・・・1
1) 効果的な学校行事の運営ができているか	4
2) 看護等職能団体との連携が取れているか	4

課題

- 1) 学校が主体となって実施している行事は、円滑に運営できている。一方で体育祭は実行委員会を立ち上げて計画から運営まで学生主体で行ったが、コロナ禍で数年間行わなかったこともあって、企画や運営のノウハウが蓄積されておらず、時間配分や種目などに課題があった。

今後の改善策

1) 課題1について

体育祭については、作成した資料や手順などを資料として残しておき、ノウハウを蓄積する。行事委員会も運営や企画に積極的にに関わり、学生をバックアップする体制づくりをする。

特記事項（良い点）

1) 就職説明会は、県内と県外の病院や施設を招いて1日で行った。時期については、見直しの要望があったため、今年度は12月に行った。これまで県内施設と県外施設を分けて2日に渡って実施していたが、県内施設と県外施設を1日で終えることは、タイムマネジメントの上ではよかった。今年度の課題を改善しつつ次年度も同様に実施する予定である。

2) オープンキャンパスは、姉妹校との合同オープンキャンパスと本校のみのオープンキャンパスを行い、合同オープンキャンパスは約200名、本校のみのオープンキャンパスは約140名の来場者があった。今年度はクラスごとに体験プログラムを企画し、卒業生にも参加してもらおう等、新しい試みで開催することができた。